

【様式】

令和元年度 学校マネジメントシート

学校名( 三重県立神戸高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○ 不断の進化を続ける「高品位な進学伝統校」 ○ 生徒、保護者、地域から信頼され、期待される学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○ 新たなことに積極的に挑戦する「気概」と、困難に立ち向かう「勇気」を持つ生徒 ○ 自主自立と協働の精神にあふれた社会で活躍できる生徒
	ありたい 教職員像	「生徒の育成」を第一に考え、進取の「気概」とお互いを高め合う「切磋琢磨」、そして「和」して働く「協働」の精神を持つ教師集団

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>〈生徒〉 学力の向上と希望進路実現、充実した教育内容と楽しく安全安心な高校生活環境</p> <p>〈保護者〉 子どもの学力向上と進路保障、基本的な生活習慣向上と高いレベルでの人づくり</p> <p>〈地域社会〉 地域の伝統校としての進学実績向上、地域を担うリーダーの育成・輩出</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p>〈保護者〉 学習・進路・生活面でのきめ細かい指導</p> <p>〈地域社会〉 地域の伝統校としての地位向上と将来を担うリーダーの育成</p> <p>〈中学校〉 地域の進学校としての存在意義</p> <p>〈地元大学〉 高大連携、目的意識醸成と基礎学力育成</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p>〈保護者〉 学校と家庭間の連携と支援、信頼関係の構築</p> <p>〈地域社会〉 学校運営への支援・協力、キャリア教育充実のための連携と協力</p> <p>〈中学校〉 生徒の学習習慣の定着と生活習慣の確立</p> <p>〈地元大学〉 高大連携の充実・促進</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>○ 3年間を通した「生徒の育成プラン」の学校全体での共有と外部への公表。</p> <p>○ 早期から将来に対する意識付けができるような体験学習含むキャリア教育の充実。</p> <p>○ 交通事故は、件数だけでなく事故の大きさや過失程度も含めて総括が必要。重大事故の絶対防止のため、警察等とも連携し、交通安全教育のさらなる充実</p> <p>○ 規範意識やマナー・リーダーシップ・コミュニケーション能力等の育成に果たす部活動の役割は重要であり、学習に軸足を置きながらも部活動の充実を。</p> <p>○ 目指す学校像「生徒、保護者、地域から信頼され、期待される学校」の実現に向け、教職員一人ひとりがその意識を持って、学校全体での取り組み推進を。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>生徒は一定の学力を有しているが、周りの環境に流されたり、安易に妥協したりするなど、十分に学力向上や進路実現につながっていない。また、主体的に学ぼうとする姿勢を培っていく必要がある。多くの生徒がクラブ活動に熱心に取り組んでいるが、学習との両立が課題。学習に軸足を置いた文武両道の推進が必要である。</p> <p>いじめや特別指導案件は極めて少なく、まじめに努力する生徒が多い。一方、やや積極性や一歩踏み出す力に欠ける面がある。生徒により能動的な学びや生活を促す必要がある。</p> <p>生徒の進路選択に資するため、学科や学年に応じて講演会・ガイダンス等を実施すると同時に、インターンシップ等の体験に積極的に取り組むよう促しているが、現状では将来への見通し、早期からの進路意識といった点には課題がみられる。</p>	

学校 運営等	<p>教員は教科指導、進路指導、生活指導、部活動指導等において真摯に取り組み、一定の成果を上げているが、各教員や学年単位での取組に偏る傾向がある。情報共有を進め、組織的な取り組み、成果となる体制づくりが必要である。また、地域の中学生(特に上位層)の他地区へ流出が増加している現状があり、本校の価値・魅力を高めること及び情報発信の強化も課題。また、各教員が持てる力を十分発揮するためにも、過重労働の削減や総勤務時間の縮減に取り組む必要があるが、業務の合理化や削減が難しい現状となっている。</p>
-----------	---

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○生徒の主体的な学習態度を養うとともに、3年間を通じて継続的計画的な学習ができるシステム構築を目指します。</p> <p>○生徒の学習意欲と学力向上を図ると共に、早期からの進路意識向上に努め、国公立に100名程度合格できる進学状況を目指します。</p> <p>○生徒の生活習慣向上とともに、自主性・積極性を引き出すリーダーシップ教育に取り組みます。</p>
学校運営等	<p>○授業内容の改善や授業力向上に組織的に取り組む風土を醸成し、生徒の授業満足度理解度を向上させます。</p> <p>○新指導要領および高大接続改革に更に理解を深め、学校としての進むべき方向性・対応策を検討決定します。</p> <p>○学校の魅力化をすすめると共にアピールを強めます。また、職員の仕事満足度の向上に努めます。</p>

### 4 本年度の行動計画と評価 ※新型コロナウイルス感染症による臨時休校により測定できなかった指標があります

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学力向上と 学習の習慣 化	<p>授業の充実や Challenge on Saturdays(CS)の継続的な実施等による学習習慣の定着及び基礎学力向上</p> <p>探究的活動(理数科課題研究 普通科「鈴鹿学」)の充実</p> <p>【活動指標】CS の浸透と計画的活用・生徒授業評価 2 回実施 家庭学習調査 4 回実施 課題研究・鈴鹿学の円滑運営</p> <p>【成果指標】授業満足度・理解度 80%以上 学習時間 15 時間/週 65%以上 学びの基礎診断(スタディサポートGTZ)B1 ↑ =50%以上 科学探究フォーラムでの入賞 3 チーム以上</p>	<p>◆授業評価 10 月実施 ※3 月アンケート実施不可</p> <p>理解度 82.4%(A41.2 B41.2) ※H30 78.3%(A35.7 B42.7) 満足度 88.6%(A54.8 B33.8) ※H30 87.4%(A48.0B39.4)</p> <p>◆CS 現在まで 17 回実施 (台風で 1 回中止)</p> <p>◆学習時間 1 月調査 週 15 時間以上 45%(45%) 1 年 38% 2 年 52% (H30⇒32% 57%)</p> <p>◆進研総学テスト 1 月 GTZ 1 年国 B2 数 B3 英 B2 2 年国 B2 数 B2 英 B2</p> <p>◆鈴鹿学⇒12/18 37 チームがポスターセッションで発表 1/15 選抜 7 チームがプレゼン</p> <p>◆課題研究 科学探究フォーラム優秀賞 4</p>	◎ ※

進路指導・ キャリア教育 の充実	<p>キャリア教育の充実、生徒の早期の進路意識向上と希望進路の実現</p> <p>【活動指標】進路希望調査の早期実施 ガイダンス等の適時実施</p> <p>【成果指標】キャリア教育全体計画の完成・早期進路意識醸成 体験学習等参加延べ 120 人以上 国公立大学合格 90 人以上(現役・卒業生合算)</p>	<p>◆外部講師講演会 7 回 ガイダンス 8 回</p> <p>◆体験学習等参加 137 名 (仕事密着・看護・保育等)</p> <p>他に、神戸中アシスタント 174 名 神戸小実験講師 30 名 希望も、臨時休業で中止</p> <p>◆国公立大合格者 83 名 (現役 78) 昨年度 70 名(現役 61)</p>	
人づくり 安全安心・	<p>リーダーシップ教育(自主自立)の充実 留学・種々の事業等への積極的に参加促進による主体性及び コミュニケーション力・協働性の涵養</p> <p>【活動指標】各種事業等への案内・参加促進</p> <p>【成果指標】各種事業等への参加生徒 30 人以上 交通安全教育の充実と交通事故の防止</p> <p>【活動指標】登下校指導、交通安全対策実施合計 15 回以上</p> <p>【成果指標】交通事故減少(昨年度 13 件)、 特に重大事故及び生徒過失による事故 0 件 命を大切にする教育推進といじめ防止</p> <p>【活動指標】いじめアンケートの実施 2 回 講話等 3 回以上実施</p> <p>【成果指標】いじめ認知件数 0 件 SNS 問題行動 0 件</p>	<p>◆各種事業参加生徒 63 名 災害ボランティア派遣 3 名 地域創造セミナー 1 名 英語ディベートセミナー 5 名 ピョンジヨム高ホスト受入 14 名 国際科学技術コンテスト強化講座 5 名 科学オリンピック 8 名 みえ科学探究フォーラム 27 名</p> <p>◆交通事故 19 件 本校過失事故 4 件</p> <p>◆いじめアンケート 2 回実施 ⇒認知 1 件 講話等 2 回(人権・生命)</p>	
部活動の 充実	<p>部活動の振興と部活動を通じた人材育成</p> <p>【活動指標】生徒の部活動加入 85% 3 年間継続 80%以上</p> <p>【成果指標】東海大会以上出場クラブ数 5 以上</p>	<p>◆部活動 加入 95% 3 学年継続 73%</p> <p>・全国=陸上 山岳 バスケット 放送</p> <p>※山岳部男子 3 位</p> <p>・東海=卓球 水泳 吹奏楽 ESS</p>	
<b>改善課題</b>			
<p>新設した CS 制度、枠組みを作り実施したが、実際どの程度の生徒が学習に取り組んだか等実施状況や効果については今後の大きな課題。次年度は全神高生が学習に取り組めるよう制度の改善中。来年度 ICT 環境整備が見込まれ、Classi の更なる具体的活用に取り組む。生徒職員への浸透や意識改革が課題。一方、交通事故は 19 件であるが、本校生の過失の事故が 4 件。スマホ利用等の交通マナー苦情もあり、指導を強める必要がある。部活動は活発に活動し実績を挙げているが、ガイドライン遵守、過重労働との関連が大きな課題。</p>			

## (2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教員の指導力向上	教科会を活用した授業研究及び模擬試験の分析推進 指導力向上の研修等への積極的取り組み 主体的・対話的で深い学び(AL)の実践 生徒による授業評価の積極的活用 <b>【活動指標】</b> 授業参観週間 2 回実施 模試の分析学年会・教科会実施と結果校内共有 指導に関わる研修会の実施 2 回以上 校外研修会 (入試問題研究会・授業力セミナー等)への参加教員 1 人平均1回以上 各教員による AL 取り組み設定と実践 生徒による授業評価を 2 回実施 <b>【成果指標】</b> 指導方法に関する肯定的評価 75%以上 生徒の基礎学力向上 GTZ 平均 B1 以上の維持	◆授業参観週間 2 回実施(9 月、10~11 月) ◆模試分析…実施済 ◆セミナー等参加 40 名 ◆授業アンケート 10 月 ※3 月実施不可 指導法肯定的評価 88.7%(A56.4% B32.3%) H30 88.4%(A50.6B37.8%) ◆GTZ 1 月進研総学テスト 1 年国 B2 数 B3 英 B2 2 年国 B2 数 B2 英 B2	※
新制度及び教育改革への対応	学校の進むべき方向の検討(新指導要領対応等含む)と地域への アピール強化。Classi の円滑運用と有効活用 <b>【活動指標】</b> 教育改革推進委員会 8 回実施 地域の全中学校訪問の実施 Classi による通信配信及び各種アンケートの実施 <b>【成果指標】</b> 新指導要領対策の基本方針と新教育課程案策定 後期選抜受検倍率 1.2 倍確保(昨年度 1.15 倍) Classi 活用肯定的評価 75%	◆教育改革推進委員会 7 回実施 ◆市内全中学校訪問済 ◆学校案内 全面改訂 ◆Classi の活用 アンケート等通信機能 ポートフォリオ機能⇒キ ャリアパスポートに適用 学習機能活用の検討 中 ◆本校志願状況について 前期選抜は昨年—6 名 後期選抜は現状 1. 26 倍	◎
働きやすい職場づくり	職員との面談、職員同士の面談を設け、総勤務時間の縮減と働 きやすく働きがいのある職場づくりを目指します <b>【活動指標】</b> 定時退校日 12 日以上設定・退校者率 85%以上 会議時間 1 時間以内 80%以下 全部活動休養日週 1 日以上 90%以上 <b>【成果指標】</b> 時間外労働月平均前年度(36.4)比 10%減・時間外 労働月 80 時間以上職員延べ人数前年度(113)比 10%減 休暇取得対前年度(20.8 日)比 0.5 日増 職員との対話増進、職員満足度の向上 <b>【活動指標】</b> 職員との対話年間 3 回以上 満足度調査の実施 <b>【成果指標】</b> 職員満足度 70%以上	◆定時退校日 14 日設定 ◆全部活動週 1 日以上 休養 98.4%の実施率 ◆労働時間縮減 時間外平均 32.4 (H 31 同時期 36.4) 80h 以上 92 人 (H30 117 人) ◆職員との対話 5~6 月期首 12~1 月 期末 3 月フィードバック ◆満足度調査 授業面 98%(H30=91%) 授業外 98%(H30=86%)	
改善課題			

生徒による授業アンケートは肯定的な評価が大勢を占めているが、学力の現状は厳しい状況が続いている。教員個人のスキルアップはもとより、教科として、また学校として組織的な改善取組が必要。また、CS、鈴鹿学、Classiと3つの新事業を導入したが、まだ効果が十分に上がっているとは言えないため、その向上が喫緊の課題。学校の情報発信としては、学校案内を刷新すると共に、市内全中学校へ本校のセールスポイントを説明に巡回。また課題を指摘されていたHPも次年度全面改訂を予定している。

教職員の働き方改革の面では、時間外労働は統計上減少しているが、次年度から月45時間、年間360時間が県の「規則」として規定される。現在はほど遠い状況であり、抜本的な改革が必要であるが、学校としての提供できる学習や活動の質を向上させることとの共存方を模索している。

## 5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学力向上については、職員集団として「GTZのB1へ」という共通意識があるかが課題。CS等の制度導入と共に実施の意義や方法についてしっかりと意思統一を図るべき。</li> <li>○生徒にもきちんとデータを示して意識付けをする必要がある。また生徒に競争意欲を持たせることや、下位生徒の持ち上げが必要。</li> <li>○鈴鹿学についてはPDCAサイクルの活用や実績の積み上げで今後質の向上が期待できる。プレゼンを行うときちんと考えたことが記憶されるので、更なる充実を目指してほしい。</li> <li>○職員の志力向上については、例えば研修主任において組織的に行うことや教科会の有効活用すること、授業をいつでも誰にでも見てもらうような風土づくりが必要。</li> <li>○CSについてはチュートリアル教育(生徒同士の教えあい)といった手法もこの委員会でも生徒の声を直接聞く機会があってもよい。</li> <li>○働き方改革については難しい課題であるが、少しでも業務の平準化や合理化を進めると共に、職員の意識改革もすすめてもらいたい。</li> </ul>
----------------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○CSについては活用方法を具体的に生徒ひとり一人に選択させる等して、実質的に神高生ひとり一人が学習する時間となるよう取り組む。</li> <li>○学力向上や自らの進路への意識付けを早期から行うことにより、学力向上、希望進路実現を目指す。</li> <li>○鈴鹿学・課題研究については今年度までの取り組み成果の上に研究の質の向上を図。そのため工程を早めること、指導体制を改める。</li> <li>○交通安全、マナーの指導を徹底し、引き続き本校生徒過失による事故、重大事故根絶を目指す。</li> </ul>
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職員の指導力向上、授業充実については、年間を通して授業公開をすすめ、また先進校ベンチマークや研修会への参加を促進し、学校全体で具体的組織的な取り組みとする。</li> <li>○次年度で全生徒が備えるClassiについては、用途を明確にし、生徒に確実に浸透させると共に、学習支援(ドリル配信や動画)の活用を促進する。</li> <li>○4月から移行する新ホームページ等を活用、中学校へのより丁寧な学校の説明等を通して、学校の発信力強化、開かれた学校づくりに取り組む。</li> <li>○働き方改革については、新たに規定される月45時間、年間360時間のガイドライン遵守へ向けて生徒保護者への理解も得ながら業務を精選する。</li> </ul>